

IV 大学生等ヒアリング調査

IV 大学生等ヒアリング調査

1 調査対象

調査対象者は、県内外の理系学部（大学院）に在学する女子学生（学部生・大学院生）であり、対象者の選定に当たっては、大学キャリアセンター、出身高校、女性団体等から県が推薦を得て本人あて依頼を行い、承諾を得て実施した。

内訳は次のとおりである。

区 分	人数（人）	学年・人数	備 考
県内大学	8	4年生・7人 修士1年生・1人	県外からの進学者を含む
県外大学	4	2年生・1人 3年生・3人	本県出身者
合 計	12		

2 調査方法

調査を受託した㈱あしぎん総合研究所から予めヒアリング内容を学生に連絡し、県人権・青少年男女参画課職員同席により、同社職員がヒアリングを行った。

ヒアリングは、大学または㈱あしぎん総合研究所会議室にて行い、一部の学生についてはオンラインにより実施した。

調査期間は令和3（2021）年7～9月である。

3 ヒアリング項目

- 理系大学への進路を選択した経緯、現在学んでいる内容
- 就職についての考え方・就職活動の状況
- 仕事やキャリア形成に対する意識
- 理系への進路選択を目指す生徒・学生を増やすために必要と思うこと

4 調査結果

(1) 理系大学への進路を選択した経緯、現在学んでいる内容

問1 理工系の進路を選択した理由・きっかけ

- 小学生の時から建物に興味があった。友人の家や都会のビルを見ると、中の構造がどうなっているのか興味を沸いてきた。大学進学を真剣に考え始める中で、やっぱり建築の勉強がしたいと思い、大学に進学した。勉強も理系科目の方が得意だったので、抵抗感なく進路を決めることができた。
- 中学生の時にテレビ番組の住宅リフォーム番組を見て建築に興味をもった。高校生のときには住宅を見て“いつか自分も携わりたい”と思っていた。勉強も国語が苦手な反面、数学が得意だったので抵抗感なく理系を選択できた。
- 高校2年生の文理選択の時、特にやりたい事もなく、父に言われるがまま理系の道に進んだ。食べるのが好きだったこともあり、遺伝子やゲノムに興味を持った。そして大学進学を考え始める時期になると、体の仕組みについて勉強したいと思うようになった。最終的にはアミノ酸等の基礎栄養に興味が強くなっていった。
- 父がコンピューターに詳しかったこともあり、小学生の頃からパソコンに触れる機会が多かった。ペイントゲームやタイピングが面白く、興味を持つきっかけになっている。
- 小学生の頃に見たテレビ番組の住宅リフォーム番組の影響で建築家に憧れをもった。勉強も国語よりも数学が好きだったこともあり、迷うことなく理系の進路に進んだ。
- 幼いころから宇宙に興味があり、中学生の頃は宇宙に関わる仕事に就きたいと思っていた。高校生の時に、宇宙関係の仕事を行う企業を訪問する機会があり、ますます興味を持った。数学や理科も好きだったことから理系の進路選択は自然な流れだった。
- 小学生6年生で初めて飛行機に乗った時、グランドハンドリングの業務を目にした。自分も将来この仕事がしたいと思った。グランドハンドリングになるためには専門学校の方が近道だが、両親の勧めもあり、理工系の大学への進学を決めた。
- 小学校の頃から食べるのが好きで、将来は製菓系の仕事に就きたいと思っていた。中学生の夏休み、進学を検討する高校の学科体験に参加し、そこで納豆菌の培養を体験し

た。小さな納豆菌がコロニー化していく様子を見て衝撃を受け、そこから微生物に興味をもった。高校進学後はミドリムシに興味を持ち、大学はミドリムシのことが学べる学校を選んだ。

- 両親が情報関係の仕事をしていたこともあり、小さい頃からパソコンに触れる機会が多かった。両親からパソコン関係やプログラマー等、今後必要となるスキルを身に付ければ経済的に安定した生活が送れると言われ、確かに、と思った。
- 祖母の家で生き物をたくさん飼っていたこともあり、幼少期から動物に興味を持っていた。中学・高校時には、小動物の獣医師になりたいと思っていたが、難しい道だと知り、獣医師以外の道を色々調べていた。その中で、牛・豚などの産業動物の仕事を知り、興味をもった。やりたい事ははっきりしていたので迷わず理系に進んだ。
- 幼稚園の時に植物図鑑を見て植物に興味をもち、小学生の頃も何となく植物が好きだった。研究が好きで、高校の時は研究ができる部活を自分達で作って、同級生と一緒にペットボトルのカビについての研究を行っていた。その当時は、将来遺伝子組み換えについての研究職になりたいと思っていた。
- 理系への進路を決めたのは文理選択を行う高校1年生の時。中学生の時には将来の事など全然考えていなかったが、担任の先生から将来のやりたい事を明確にしてから文理どちらに進むかを決めるよう強く言われた。インテリアや家具に興味があったため、理系の道に進もうと思った。建築分野の必須科目である物理は苦手だったが、やりたい事を諦めようとは思わなかった。

問2 進路選択に当たって影響を受けた人や物事(保護者・きょうだい・先生・友人・先輩・タレント・新聞・書籍・SNS など)

- 進路は自分で決めてきた。就職活動の時も、両親が口を出すことはなかった。
- 影響を受けたわけではないが、進路選択については家族に相談した。
- 進路は自分で決めてきた。両親は「やりたい事をやりなさい」と言ってくれた。
- 農業系の高校への進学を考えていた自分に、両親は「進路を狭めることになる」と反対したが、最終的には自分の興味を優先した。

- 自分としてはやりたい事を選択しただけだと思っている。両親も進路選択については特に口を出さなかった。高校時代の先生からは、女性だと研究職の就職は難しいと言われた。
- 進路選択は親の意向が強い。父は地元進学校の教師で教育熱心、高校進学の時も地元の進学校に行くように言われた。親が敷いたレールの上を進んでいるとの自覚はあるが、結果的には親の言うことは合っていると思う。
- 父の影響が大きい。父はシステムエンジニアで、家でも仕事の話聞く機会が多かった。意識したことはなかったが、自然と興味をもつきっかけになっていたのかもしれない。就活の際も、父からアドバイスをもらうことで、気持ちを後押ししてもらえた。
- 父と兄の影響が大きい。進路に悩んでいた自分に対し、父は背中を押してくれた。兄は高校2年生の進路選択の時に「理系の方が将来性はある」とアドバイスしてくれた。
- 両親の影響が大きい。大手理工系企業に勤める両親からは、今の時代 IT 系の知識は必須だから学んでも損はないと言われた。また、両親は東京か神奈川で就職した方が良いと言う。特に母は地元である栃木ではやりたい事ができないと感じ東京に出て行ったこともあり、その思いは強いようだ。自分もそれには同感で、栃木で就職したいとは思っていない。
- 高校の文理選択の際に、担任の先生から将来やりたい事を考えて進路を選択するように言われた。正直、高校1年の時点で将来やりたい事なんてわからない。焦って決める形になったが、結果的には自分のやりたい事が見つかり、先生に背中を押された。今思うとありがたいと感じている。

問3 在学中の大学を選んだ理由

- 両親から仕送りはできないと言われたので、実家から通える範囲の学校を探した。
- 地元が〇〇市（県南の市）なので、自宅から通えて、かつ指定校推薦枠のあった大学の土木・建築分野への進学を決めた。
- 実家は自営業で決して裕福ではなく、両親からは国立に絶対行ってほしいと言われていた。一人暮らしもしたかったが、生活を考えると自宅から通えるエリアにするし

かなかった。運良く地元国立大学の入学金免除の奨学金申請が通り、担任の先生からも推薦がもらえたので、そこに行くことを決めた。

- キノコ類の栽培研究が行える大学への進学を考えていたが、友人と指定校推薦の希望がかぶってしまい、あきらめることになった。最終的にはミドリムシの研究ができる大学を選択した。一人暮らしもしたかったが、お金もかかるため近場を選ぶしかなかった。
- 食べるのが好きで、食物の商品開発がしたいと漠然と思っていた。そして浪人を経て栃木県内の大学へ進学した。少人数で学べる田舎の方が自分らしくできると思い進学を決めた。埼玉県から栃木県への進学は特に抵抗はなかった。
- 建築を学べる大学を探している中で工科大学を志望するようになった。しかし、学力的に同大学の建築学科への進学が難しかったため、今いる学科に切り替えた。未練があるのは事実だが、元々、建築家以外に IT 系のデザインにも興味があったためそちらで頑張ろうと思った。
- 宇宙に興味があったので、そうした分野の勉強ができる大学への進学を目指していた。近隣で理工系の進学先が少なく苦労したが、今いる大学に宇宙工学科がある事を知り、興味をもった。
- 進学先を決めるにあたり、目指している航空関係の知識が学べる学校はそう多くなく、初めから遠いところでも構わないと思っていた。両親も場所はどこでも構わないからやりたい事を優先するように言ってくれた。今いる大学に航空宇宙工学科がある事を知り、進学に至った。
- 大学を選ぶ際、今いる大学で遺伝子組換えの研究ができる先生がいることを知り興味を持った。
- 短大に入学した。元々は建築分野を志望していたので、入学前までは建築学科への編入を考えていたが、他の選択肢も検討する中で、今の空間デザインの方が自分に合っていると思った。
- 畜産に関する勉強ができる学校を探し、進学を決めた。畜産といっても食料全般について学ぶことができ、入学した後に選べる進路が広いことも魅力だった。

問4 大学で学んでいる内容

- 大学では建築分野の勉強をしている。卒業すると建築士の受験資格を得られる。
- 卒業研究は、住宅の築年数と気候による機密性の変化について調べている。
- 大学の修士論文では、肝臓に関する研究をしている。低たんぱく食を食べ続けると、体に悪いことが起こるシグナルが出ることを追究し、しっかりとした栄養補給が筋肉・パフォーマンスを高めることを証明するような研究をしている。
- 大学では画像処理の研究室に所属している。卒業研究のテーマは、ユーザビリティ評価や画像認証についてである。
- 大学では UI（ユーザーインターフェース）／UX（ユーザーエクスペリエンス）デザインについて学んでいる。例えば、Web サイトなどにおけるユーザビリティの向上を図るデザイン設計等について勉強している。
- 大学では、主にプログラミングの勉強をしている。将来的にシステム開発やソフトウェア開発ができるスキル習得を目的としている。
- 大学では、旅客機が水面着陸時に衝撃をどう受けるかという研究を行っている。
- 大学では食品・生物系から動物系に至るまで幅広く学んでいる。植物細胞分子研究室に所属しており、ミドリムシをテーマに卒業論文を作成している。
- 大学では植物生理学の研究室に所属し、接ぎ木のメカニズム研究を行っている。元々遺伝子組み換えの研究を志望していたが、接ぎ木の研究に興味を沸き、今の研究室を選択した。
- 大学では空間デザインコースに在学している。商業施設や小売店のディスプレイの考察等、与えられた空間をより良く見せるためにはどうするかといった勉強をしている。
- 大学では人間が畜産動物をどう使っていけば上手く命をいただけるのか等について学んでいる。

(2) 就職についての考え方・就職活動の状況

問5 やってみたい仕事やなりたい職業

- ゼネコン（関西圏に本社）から内定をもらっている。配属先は関東で、業務としては施工管理の仕事をする予定。就職活動の時には、設計の仕事と施工管理の仕事で迷ったが、自分の性格的に机に向かって作業をするのが苦手なので、現場に出向く施工管理の方が自分には向いていると思った。
- 住環境に関わる仕事がしたいとずっと思っていた。住宅の設備器具メーカー（群馬県本社）に内定をもらっている。〇〇市（県中部の市）にも工場があり、設計職で入社しキッチン関連製品の製造に携わる予定。母親とキッチンについて話をしている中でキッチンの大切さを感じ、お客様のために設計・提案したいと思った。建築といたら設計の仕事くらいしか知らなかったが、大学で色々調べる中で施工管理という仕事もあることを知った。
- ずっと続けてきた陸上競技での経験を仕事にも活かしたいと思っている。具体的には厳しい減量経験を通して、太ることを気にせずに食べられるものを開発したいと強く思うようになっている。同じような悩みを持つ人の役に立つ仕事がしたい。プロでもアマチュアでも、アスリートに関われる仕事がしたいというビジョンを持っている。
- 鉄道会社に内定している。大学で勉強していることを活かし、将来的にはMaaS事業に関わりたいと思っている。
- UI/UX デザイナーになりたいと思っている。コンテンツやソフトウェアの開発に携わるような仕事ができる企業を受けようと思っている。比較的新しい分野で人材として採用枠が広い分野ではないが、企業における IT・ネット戦略の重要性が増す中で、先行する企業からは興味を持たれやすい。ただ、個人の技術・スキルに左右されるため、競争は厳しい。
- 今は、システムエンジニア（SE）に憧れを持っている。顧客との対話を通じたものづくりがしたい。
- グランドハンドリング職に憧れていたが、コロナ禍で航空業界を取り巻く環境を考え、諦めた。最終的には今勉強していることを活かせる会社（制御運用技術・コンピ

ューター制御システム等を手掛ける会社)に行くことを決めた。コロナ禍で、当初想定していたような就職にはならなかったが、今は内定した企業で頑張りたいと思っている。

- 大学で学んだ知識が活かして自分の研究欲が満たせる職業に就きたかった。しかし、自分の研究欲と仕事の両立は難しく、品質管理の道に進もうと考えるようになっていく。品質管理職であれば自分の研究欲が満たされると思っている。
- 就職は食品会社（北関東に本社）に内定しており、品質管理の仕事を行う予定。大学進学後、勉強が活かせる仕事にどのようなものがあるのかを考えるようになっている。その中で、食に関する仕事は無くならないと思い、食品に関する仕事に進もうと考えた。
- 大学で学んでいることを活かして、将来は展示会・イベント等の集客環境づくりや美術館や図書館・オフィス環境づくりなどに関わる仕事がしたい。また、英語が得意なので将来的には海外で働きたいと思うこともある。やりたい仕事で海外に行ければ行きたいと思う。父が海外赴任の多い仕事で、昔から漠然と憧れを抱いていた。
- 将来的には、農業運営上のアドバイスや技術指導等を行う仕事がしたい。その他にも6次産業化に関する仕事など、開発や生産監督などの仕事も進路選択として考えている。栃木県は酪農が盛んな地域でもあり、地元でもあるので、いずれは栃木県に戻ってきたい。できれば実家・地元に近いところで働きたい。

問6 就職活動について

- 就職にあたり、地元の企業というのは絶対に譲れない条件だった。親からは社会人になったら援助はしないと言われていたし、自分の今後のためにも貯金がしたい。本当は宇都宮市での就職が良かったが、行きたい会社がなく、最終的には県内の食品製造会社に内定をもらった。内定先の企業を選んだ決め手は、商品が長年愛されているか（ブランド力）。消費者から愛されていない・必要とされていないものは作りたくない。
- 就職先は、まず職種（品質管理職）で絞り込みを行い、次に勤務地を優先した。貯金がしたかったので自宅から通える範囲での就職がしたかった。地元が〇〇市（隣県の市）なので埼玉・栃木・群馬等、通勤可能な範囲は意外に広い。やはり給料は大事だ

と思う。お金が貯まればやりたい事ができる。転職もしたいが、品質管理の仕事はキャリアアップできる仕事ではないイメージがあるので、転職すると給料が下がる可能性の方が高くなっている。そのため、一生働ける会社を選んだつもりだ。

- 就職活動を始めた当初はハウスメーカーを中心に企業を見ていた。自分のやりたい事（業種）で企業を絞り込み、次に勤務地や休暇制度などを重視していた。勤務地は自宅から通える範囲を基準としていた。実家の方が安心なので、将来的にも東京に行きたいとは思わない。給料はあまり気にしていない。
- 企業の情報収集は専門サイトを中心に行った。検索条件としては、まず勤務地（自宅から通えるエリア）、次に職種（PG・SE）で絞り込みを行った。都会での生活は大変そうだったので、東京都内での就活はしなかった。企業選択を行う上で、もう一つ地元貢献という軸も持っていた。地元に戻るのであれば地元貢献も良いかなという思いが就活をする中で強くなっている。役所や学校関係のシステムを請け負う会社であれば、自分が身に付けた知識・スキルで地元貢献できると考えた。
- 就職先を探すにあたり、最も優先したかったのは勤務場所。車の免許を持っていないので、車がなくても生活できるところに行きたかった。大学までずっと〇〇市（県北の市）で生活をしていて、娯楽が多い都会への憧れがあった。そのため、県内に就職するという選択肢は自分の中にはなかった。大学で学んだことを活かせる企業を探している中で、毎日利用している鉄道会社に興味を持った。福利厚生も良く、迷いは無かった。
- 就職にあたっては、職業（何を作っているか、どんなことをしているか）を重視し、勤務地や企業規模はあまり気にしていない。大企業は福利厚生が充実し、安定している魅力的だと思うが、それよりもやりたい事ができることが重要。しかし実際には、地方の中小企業で自分がやりたい事ができる会社はほとんど無い（知らない）ため、結果的に大企業に目が行ってしまう。また、大学院まで進学しているプライドもあるため、給料は気にしてしまう。勤務地についてはやりたい事ができるのであればどこでも良いが、理想を言えば、関東圏が良い。実家からも近く、便利であることに加え、プライベートも充実できる。
- 就職活動は専門サイトを中心に行っている。技術職での採用が第一で、次にワーク・ライフ・バランスを重視している。それ以外にも、デザイナーと企業をマッチングするプラットフォームサイトを活用している。志望している分野への就職を考えると、就職先は必然的に東京となる。ただ、最終的な将来像としては地元である〇〇市（県

南の市) で生活したいと思っている。職種的にもリモートでも十分仕事はできる。

- 就職にあたり、母からは企業選択の条件として福利厚生・労働時間・女性への支援（育休など）等が重要だと言われた。企業選択では、まず職業で IT 系を選択し、次に勤務地を優先したい。首都圏が希望で、住むのも東京都内がよい。欲を言えば、会社は駅から近いところが良い。
- 企業の情報収集は専門サイトを中心に行った。まず、やりたい職種で検索し、その中から大学の勉強が活かせる先を見つけていった。やはり大手の方が安心感はある。実績がある分、将来性もあると感じる。自分の中では企業ブランドの優先順位は高くなっている。一方で、立地環境は特に気にせず、田舎でも構わない。中でも大学の先輩が行っている先は安心感があつた。就活を進める過程で、最後の説明会で女性社員の話等を聞け、より安心感が生まれた。
- 就職について真剣に検討を始めたのは大学 3 年生の夏以降。就職活動ではゼネコンやハウスメーカーを受けていた。企業選択にあたっては、自分のやりたい事ができるか（建築に関われるか）、女性が多いか、給料等を重視していた。場所については特にこだわりはなかったが、休日（休みが取れるか）や育休の取得率、有給休暇の消化率なども確認した。休みがしっかり取れる会社は女性に優しい会社だと感じる。企業規模も強いこだわりはないが、やはり一部上場企業の方が給料は高く魅力的。業種的に休みは少なく残業も多いため、それであれば給料が高くなっている方がよい。また、長く勤めることを考えると企業の安定性は大事。「ずっと働ける会社＝規模が大きい会社」というイメージは強い。栃木県や埼玉県でもゼネコンはあるが、条件的に行きたいと思える会社がなかった。
- 企業選択をする上での条件はこれと言ってない。大手企業ではなくても自分のやりたい事ができる会社であれば良い。ただ、現実的には自分がやりたい事ができる企業は東京が圧倒的に多く、地方で就職する確率は低いと思う。別に栃木県に帰りたくない訳でもないが、帰りたい訳でもない。田舎の方がお金は貯まるが、それが企業を選ぶ決め手になるわけではない。
- 就職先は、まず業種で絞り、次に福利厚生（休暇制度など）を気にする。結婚願望はあまりないが、体調を崩したときにしっかりと休める環境で働きたいと考えている。自分が休むと仕事が回らないような職場は嫌だ。一方で、給料はそれほど気にしない。休暇取得を気にする理由としてワーク・ライフ・バランスもある。仕事だけではなくプライベートも楽しみたい。

(3) 仕事やキャリア形成に対する意識

問7 結婚・出産後の仕事の継続について

- 結婚や育児をすることになっても仕事は続けたいと考えている。家庭に縛られるのではなく、家庭以外にも所属していきたい。経済的にゆとりがあっても仕事をしていたいと思う。定年まで働きたい。
- 結婚しても仕事は続けたいと思っている。お金も必要だし、やりがいを感じていたらやめられないと思う。
- 結婚・出産をすとなれば、少し休んでまた仕事に復帰したい。就職活動の時も、くるみん認定※マークを取得しているかどうかは気になっている。

※くるみん認定

「次世代育成支援対策推進法（平成15年法律第120号）」に基づき一般事業主行動計画を策定・届出を行った事業主のうち、行動計画に定めた目標を達成したなどの一定の基準を満たした場合、「子育てサポート企業」として厚生労働大臣から認定される制度。

- 結婚や子育てをすとしても仕事は続けていきたい。SE職であればテレワークも対応できる。一方で、SE職は残業が付きものの職業でもある。時期によっては仕方ないと思うが、メリハリをつけるためにも会社を選ぶ際には休暇制度等は気にしていた。
- 結婚しても働き続けたいと思っている。そういう会社を選んだつもりだ。会社を選ぶ際にも福利厚生の内容は優先し、必ずチェックした。
- 結婚して仕事を辞める選択肢はない。そうした環境が整っていることが企業選択の前提条件になる。
- 結婚後も仕事は続けたいと考えている。ただ出産後についてはまだわからない。子供に寂しい思いさせたくないという気持ちもある。
- 仕事と家庭は両立させたい。両親も共働きで自分を育ててくれた。子供のためにも、定年まで働きたいと考えている。内定している企業は育休もとれる。就職活動中も、福利厚生は気にしてみていた。

- 子供が生まれたら地元に戻りたいと思っている。自分に子供ができる頃には教育の地域格差も小さくなっていると思う。
- 将来の事はわからないが、今の時代、育休・産休が取れるのは当たり前ではないのか。逆に取れないような会社があるのかな？と思う。
- 母を見ていて、出産で一度現場を離れてからの仕事復帰は大変そうだと思う。

問8 キャリアアップへの興味

- キャリアアップに興味はないが、できる仕事を増やすために資格を取りたい。今は建築士や施工管理技士の資格を取りたい。
- キャリアアップに対してあまり意欲はない。上の立場に立つのは苦手で自分には向いていないと思う。学生時代も野球部のマネージャーをしていて、自分はどちらかというところのサポートをする方が向いている。
- キャリアアップに興味はない。自分のやりたい仕事ができれば良い。
- 自分はガツガツした性格ではないので、キャリアアップというよりは自分のやりたい事ができれば良いと思っている。
- キャリアアップはしたい。収入が増えるし、よりやりがいのある仕事につながると思う。また深い知識を身に付けたいとも思う。
- キャリアアップはしたい。性格的に同じことをずっとできないので、ステップアップして色々な仕事にチャレンジしたい。

(4) 理系への進路選択を目指す生徒・学生を増やすために必要と思うこと

問9 理系への進路選択を目指す生徒・学生を増やすために必要と思うこと

- 理工系への進路選択者を増やすためには、小さいときからものづくりなどに触れる機会が多い方が良いと思う。やりたい事ができれば嫌いな数学も好きになれると思

う。

- 女性が技術者として働いている話を聞くことで、理工系を選択する可能性は高くなると思う。理工系は溶接などをやっている男性社会のイメージが強い。しかし実際には違う部分も多く、もっと楽に考えていくべきだと思う。自分もそうであったように、小学生くらいから興味を持てるような話を聞きたい。女性が実際の現場でどう活躍しているのかを知るのは重要だと思う。
- 自分自身、幼稚園の時に見た植物図鑑が結果的には進路選択のきっかけになっていた。小さい時の影響は大きく、興味を持たせるきっかけになると思う。また、高校の時の進路選択はどうしても勉強の得意不得意で選びがち。文系の方が楽だから文系を選ぶ人は多いと思う。
- 理系の選択生徒を増やすためには、企業に触れる機会を増やすべきだと思う。私が選んだSEという職業も、実際に勉強するまでは何をやっているのかわかりにくかった。企業の個別説明会等、どういうことをやって、どう社会の役に立っているのかを早く知ることができれば、興味を持つ人も増えると思う。理系の良さを伝えるには、ただ説明するのではなく、身近なところに関係するものに使われている等、具体性をもって説明した方が良いと思う。

